

5月の栽培管理

リンゴ

○「ふじ」の生育状況

＜県南部（果樹試験場本場）＞

発芽始め（確定） 4月5日（平年：4月2日、平年＋3日）

展葉（確定） 4月15日（平年：4月12日、平年＋3日）

開花始め（予測） 5月4日（平年：5月2日、平年＋2日）

（平年値は平成27～令和6年の平均、以下同じ）

※予測は今後の気温等によって変化する。

本年、発芽・展葉は平年に比べやや遅い状況であるが、今後の気温次第で一気に生態が進む可能性がある。生態が進むにつれ花器の耐凍性は低下するので、晩霜害発生の危険性を考慮し、被害防止対策（4月の栽培管理参照）の準備を進めるとともに、生態に合わせて作業を行う。

1. 人工受粉の徹底

開花期間中に低温や降雨、強風が続く場合は、マメコバチやミツバチ等の訪花昆虫の活動が低下するため、気象条件等のタイミングを見計いながら積極的に人工受粉を実施し、中心花の結実を確保して、商品性の高い果実生産を目指す。

人工受粉を行う際には、当年の良質な花粉を使用することが望ましいが、貯蔵花粉を使用する場合は事前に発芽率調査を行う。また、輸入花粉は火傷病感染リスクがあるため、使用しない。

人工受粉は、中心花へのぼん天受粉が確実だが、作業時間（20～25時間／10a）が多くかかるので、作業効率の良いラブタッチ（ぼん天受粉の1/5～1/4）の活用も考慮する。

なお、自園地の状態を観察し晩霜害の被害があった場合は、必ず人工受粉を行い結実確保を図る。

表1 「ふじ（S1S9）」に対する主要品種の交雑和合性

完全和合性品種 ^{注1}	不完全和合性品種 ^{注2}	
S1とS9以外の組合せの品種	S1を持つ品種	S9を持つ品種
ゴールデン・デリシャス 王林 つがる 未希ライフ さんさ ゆめあかり	秋田紅あかり 秋田紅ほっぺ シナノゴールド 秋映 シナノスイート きおう ぐんま名月	アキタゴールド 金星 恵 陽光 トキ はるか 紅玉

「やたか」、「ひろさきふじ」、「昂林」は「ふじ」と同じ遺伝子型（S1S9）で不和合性品種

注1：「ふじ」のS遺伝子型といずれも異なり和合性が高い品種

注2：「ふじ」のS遺伝子型といずれか一方が異なり和合性のある品種

2. 摘花の実施

本年の花芽分化率は園地間差はあるが全体的に高く、開花量が多いと見込まれる。樹体養分の浪費を抑えるため、早めに摘花作業を行う。

摘花は、前年に樹勢低下がみられた木、開花量が多く花そう葉が小さい木等を優先して実施する。摘花するのは、腋芽花や生育不良の花そう、枝の直上直下、長さ20cm以上の枝の花そう等、着果させない部位の花である。

今後、晩霜害がなく開花期間の天候が良好で結実量が多くなると予想される場合は、積極的に摘花剤を使用し、果実肥大の促進と摘果作業の省力化を図る（表2）。

表2 摘花剤の使用法

薬剤名	散布時期	使用方法	留 意 点
石灰硫黄合剤 （使用回数： 2回）	1回目散布は満開期（頂芽の花が70～80％開花した日）とし、2回目は前回より3～4日後。	濃度：100～120倍 展着剤：不要 散布量： 350～400/10a	・木全体に散布するが、手散布では花を重点に散布する。 ・ミツバチを放飼している場合は、散布前に回収する。 ・人工受粉を行う場合は1回目の散布を受粉後2～3日後に行い、2回目はその2～3日後に行う。
エコルーキー （使用回数： 2回以内）	1回目散布は満開期（頂芽の花が70～80％開花した日）とし、2回目は前回散布の2～3日後。	濃度：100～150倍 展着剤：不要 散布量： 300～600/10a	・人工受粉を行う場合は1回目の散布を受粉後1～2日後に行い、2回目はその2～3日後に行う。

3. 摘果作業

がく立ちを確認したら粗摘果に入り、良好な果実肥大を確保するために満開30日後（6月上旬頃）までに仕上げ摘果を終了する。

また、自園地の経営面積と労働力を勘案して、適期に摘果作業が終えられるよう摘果剤の利用を検討する（結実量が少ない園地では実施しない）。

表3 薬剤摘果の方法

薬剤名	散布時期	使用方法	留 意 点
ミクロデナボン水和剤85 （1回散布）	満開後1～4週間 〈中心果横径〉 「ふじ」 7mm 「王林」 12mm が3割以上になった時	濃度：1,200倍 展着剤：加用 散布量： 200～700/10a	・散布は温暖な日が良い。 ・散布量は十分量とする。 ・「つがる」は散布を避ける。 ・効果発現は10～14日後。

4. 「やたか」などのつる割れ軽減

樹勢が旺盛な「やたか」や「昂林」に対し、ヒオモン水溶剤を満開20～30日後に3,000倍で1回散布（展着剤不要）することでつる割れの発生を軽減することができる。

使用の際は次の点に注意する。

○薬剤は単用で手散布を基本とし、樹勢が弱い木への使用は控える。

- ミクロデナポン水和剤85の散布後に本剤を散布すると摘果効果が劣ることがあるので本剤との併用は避ける。
- 散布により果実肥大がやや劣ることがあるので適正着果に努める。
- 散布後、一時的に新梢の先端葉のしおれがみられる場合があるが、生育には影響しない。

5. 土壌管理

落花後から梅雨までの間は降雨が少ないことが多いため、土壌が乾燥してきたら、かん水や草刈りを実施する。特に定植、移植をした苗木や若木は、晴天が3日以上続いたら適宜かん水を行うほか、樹冠下マルチ等で乾燥防止に努める。また、砂壤土等の透水性の良い園地は乾燥しやすいので、こまめにかん水を行う。

モ モ

○「川中島白桃」の生育状況

＜県南部（果樹試験場本場）＞

発芽始め（確定）	4月 2日	（平年：3月30日、平年＋3日）
開花始め（確定）	4月 25日	（平年：4月24日、平年＋1日）
満開期（確定）	5月 2日	（平年：4月29日、平年＋3日）

1. 予備摘果

摘蕾を実施していない場合や不十分な場合は、受精果、未受精果の判別がしやすくなる満開20～30日頃に予備摘果を行う。花粉の多い「あかつき」などの品種を優先し、「川中島白桃」などは結実が確定してから作業する。予備摘果の着果量は最終着果量の2～3倍までとする。

予備摘果する果実は摘蕾と同様に骨格枝の先端部や枝の分岐部、結果枝の基部、上向き果等とする。

2. せん孔細菌病の耕種的防除（春型枝病斑の除去）

開花期頃から2年枝の芽基部に紫褐色～紫黒色の病斑（春型枝病斑）が確認できるようになる。せん孔細菌病は薬剤散布のみで防ぐことは困難なので、伝染源となる枝病斑の除去をしっかりと行う。発生がみられたら、枝病斑から基部側に2芽以上離れた葉芽で切り戻す。



枝病斑

切除位置

オウトウ

○「佐藤錦」の発芽と開花

＜県南部（果樹試験場本場）＞

発芽始め（確定） 3月29日 （平年：3月30日、平年－1日）

開花始め（確定） 4月24日 （平年：4月22日、平年＋2日）

満開期 （確定） 4月28日 （平年：4月27日、平年＋1日）

1. ビニール被覆の準備

生態が早く推移しているため、管理作業が遅れないようを心がける。早めにパイプハウスに破損や緩みがないか点検し、雨よけビニールの被覆に備える。